

マイクロ・メゾ・マクロループの枠組みでとらえる地域通貨の進化

吉田昌幸 | 上越教育大学
 小林重人 | 北陸先端科学技術大学院大学
 宮崎義久 | 仙台高等専門学校

本研究はJSPS KAKENHI Grant Number 18K04603 を受けて行ったものである。

はじめに

地域通貨の進化

地域通貨の世代分類 (Blanc 2011)

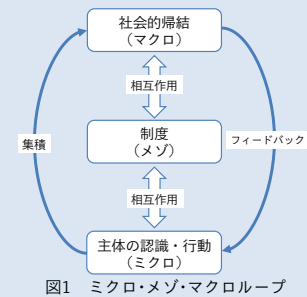
- 第1世代 (LETS, trueque, CES)
 - 第2世代 (Time Bank, Accorderie)
 - 第3世代 (Ithaca Hour, Tregio, Palmas, BerkShare)
 - 第4世代 (NU, SOL)
- } → 互酬性を重視するコミュニティ重視型
 → 市場を重視 + 政府から距離を置く地域重視型
 → 市場を重視 + 政府や互酬性との関係性も構築する補完重視型

地域通貨が時代と共にコミュニティ型→地域重視型→補完型へと変容していることが示されている

これらの変容が生じる過程、特に変容する要素と継承する要素の取捨選択過程に対する検討が必要

マイクロ・メゾ・マクロループ

マイクロ・メゾ・マクロループとは？



制度 = 主体の認識・行動の変容やそれに伴う社会的帰結の変化を契機に変容するルール

「諸制度は主体の行動・認識 (マイクロ) および社会的帰結 (マクロ) との間で相互作用することで生成、維持、変化、消滅」
 (小林, 西部, 栗田, 橋本, 2010)

地域通貨という制度の進化をとらえる枠組みとして利用

図1 ミクロ・メゾ・マクロループ

本研究で用いる研究枠組み

- マクロレベル：地域通貨という制度を取り巻く外部環境を分析
- ミクロレベル：地域通貨のシステムを構築する発行主体やそれを利用する主体の思考・行動様式を分析

これらの分析を通じて、地域通貨を発行する目的や形態、地域通貨を発行することで形成される価値等をルール (複製子) として位置づけ、それらの動的な関係性を把握する

地域通貨の進化：マクロからの影響、ミクロからの影響

地域通貨発行目的の分析 (マクロ分析)

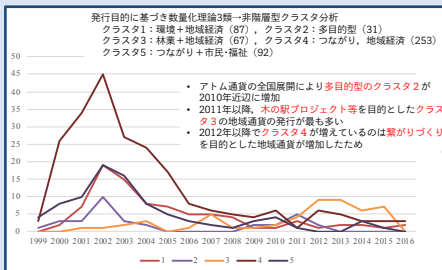
- 論文、報告書、新聞DB、ウェブサイトをもとに、日本の地域通貨リストを作成 (Kobayashi, Miyazaki and Yoshida 2017)

表1 発行形態と発行目的の連関

発行目的	発行目的													合計
	人のつながり	地域活性化	環境の保護・改善	自然環境の保護・改善	健康・文化継承	経済・文化継承	自治体・官公庁との連携	商店街・地域経済の活性化	イベント・市民活動の活性化	農林水産物の販売	地域外との交流	国際交流	その他	
紙幣方式	264	57	122	127	11	17	220	68	101	80	32	15	40	429
通帳方式	57	22	24	22	5	5	36	13	36	7	8	4	10	104
ICカード方式	8	2	0	2	0	0	7	1	3	1	1	0	0	12
その他	13	6	12	3	0	4	21	6	5	1	3	0	3	31
オンライン方式	18	3	6	5	1	2	11	7	5	1	5	1	3	21
その他	8	3	4	4	0	0	9	2	3	1	1	0	4	15
合計	349	78	148	144	14	23	258	79	129	86	39	17	50	537

紙幣方式の62%、通帳方式の93%、オンライン方式の86%が「人のつながりづくり」、紙幣方式の51%、通帳方式の35%、ICカードの68%が「商店街・地域経済の活性化」を目的とする

発行目的の組み合わせの変化が社会状況の変容に合わせて見られる (地域経済 + 林業, 震災復興)



組織的に地域通貨の流通モデルを伝播普及しているものが発行数の増加に寄与 → クラスタ2 (アトム通貨) クラスタ3 (木の駅プロジェクト)

図2 クラスタ別新規発行数の推移

地域通貨利用に伴う認識・行動分析 (ミクロ分析)

- ゲーミング・シミュレーションを用いて、発行形態による地域通貨利用者の認識や行動の違いを分析 (吉田・小林 2016)

流通のしやすさ：紙幣方式 > 通帳方式
 利用者の意識変容：通帳方式 > 紙幣方式

紙幣方式の地域通貨は流通は促進されるが、貨幣の多様性や地域貢献意識が形成されにくい

通帳方式の地域通貨は貨幣の多様性や地域貢献意識を形成する利用者の行動と意識の相乗効果が見られる

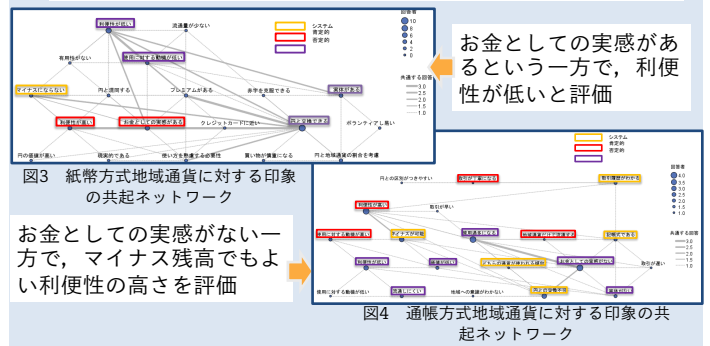


図3 紙幣方式地域通貨に対する印象の共起ネットワーク

図4 通帳方式地域通貨に対する印象の共起ネットワーク

